



Title	「害虫(感染症を媒介する節足動物)から効果的に身を守る手段とは?」
Author(s)	杉岡, 弘基
Citation	目で見えるWHO. 2014, 55, p. 21-23
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86697
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「害虫 (感染症を媒介する節足動物) から効果的に身を守る手段とは?」

大日本除虫菊株式会社 (KINCHO) 中央研究所 研究所員 杉 岡 弘 基



Hirokii SUGIOKA
大日本除虫菊株式会社 (KINCHO) 中央研究所
研究所員 (生物研究室)
TEL: 06-6334-0002
FAX: 06-6334-0004

節足動物媒介感染症にご用心!

人間は感染症と闘いながら、歴史を刻んできたともいえます。感染症の原因となる病原体には、ウイルスや微生物 (細菌、カビ、原虫等)、そして回虫、蟯虫などの寄生虫が挙げられますが、とりわけマラリア [蚊により媒介]、ペスト [ノミにより媒介] や発疹チフス [シラミにより媒介] といった「吸血性の節足動物による感染症」は現在に至るまで世界中で数多くの尊い命を奪ってきました。

感染症は多くの場合、公衆衛生の整っていない環境、すなわち下水道設備や公害対策が十分に行われていない地域、あるいは戦争中といった非常事態で生じます。しかし、節足動物により媒介される感染症は、清潔志向の高い現在の日本でも十分蔓延する恐れがあります。それは、病原体を保有する吸血性の節足動物 (ベクター) が、自身が生存する為、もしくは産卵する為という本能に従って、人間を含む吸血対象に近づき、吸血する際に病原体の媒介が起こるからです。「君子危うきに近寄らず」ということわざがありますが、この場合、「危うき」対象自体が近づいてくる点で非常に厄介であるといえます。

感染症を媒介する吸血性の節足動物とは?

現在では、医学、薬学、そして生物学等の科学の発展により、種々の感染症が吸血性の節足動物により媒介することがわかっています。上述の蚊、ノミ、シラミの他、ハエ (サシバエ、ツェツェバエ)、アブ、ブユな

どの双翅目昆虫、サシガメなどの半翅目昆虫、イエダニ、マダニ、ツツガムシといったダニ類が感染症を媒介します。吸血性の節足動物の生態に着目すると、蚊、アブ、そしてブユは産卵する為のタンパク源として動物から吸血しますが、他の節足動物は雌雄を問わず、動物の血液、組織液をエサとします。

日本では節足動物が媒介する感染症の多くが、1998年に制定された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (感染症法)」により四類感染症 (動物又はその死体、飲食物、衣類、寝具その他の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれのある感染症) に指定され、患者が発生した際は、医師は最寄りの保健所への届出が義務付けられています。

日本で注意したい害虫について

病気を媒介する恐れのある衛生害虫だけでなく、家の周囲に生息するムシ全てが不快であると感じる方が多く見受けられる昨今ですが、ここでは注意したい害虫として蚊とダニ類をピックアップします。

これまでに国内で蚊により大規模に生じた感染症として、マラリア、デング熱、日本脳炎などが挙げられます。それぞれの感染症の今昔について見てみましょう。

マラリアは、全国に分布するシナハマダラカと南西諸島原産のコガタハマダラカにより媒介されます。記録としては、平安時代から北海道や琵琶湖周辺をはじめとした全国の湖沼周辺で蔓延していました。特に、第二次世界大戦時の沖縄で生じたマラリアの集団感染、死亡例は「戦争マラリア」と呼ばれ、マラリア発生地域への強制疎開が悲惨な事態を招きました。

デング熱は、ネッタイシマカ、ヒトスジシマカにより媒介されます。本症は、1941年に勃発した太平洋戦

害虫から効果的に身を守る手段とは？

最後に、上記の害虫から自身の身を守る手段についてまとめます。結論から言いますと、家庭用殺虫剤、人体用虫よけ剤を使用場面に合わせて使用して頂くのがベストと言えます。

報道により記憶に新しい蚊媒介性のデング熱、そしてマダニ媒介性のSFTSをはじめとした、ワクチンなどの特效薬が無い節足動物媒介感染症から、殺虫剤・虫よけ剤で身を守りましょう。

蚊に関しては、風通しの良い場所での蚊取線香の使用が有効です。閉め切ったお部屋の中では、コンセントや電池で作動する蚊取り剤や、少量噴射で蚊の駆除効果を発揮するワンプッシュ式エアゾール、又は、容易に空間噴霧できる通常のエアゾール製品(キンチョール等)をご使用いただくのが有効です。

また、屋外に出る際は、蚊取り線香や、皮膚に直接塗布する人体用虫よけ剤、携帯できる電池式蚊取り剤が蚊による吸血を防ぐのに効果的です。

一方で、マダニについてはこれまで薬事法上衛生害虫とされていみせんでしたが、2013年6月に厚生労働省から通知があり、マダニ類が人体用の衛生害虫に含まれることになり、マダニに対する効能が追加された家庭用殺虫剤、人体用虫よけ剤が本年より本

格的に販売開始されています。人体用虫よけ剤でマダニによる吸血を防ぐのが最も有効です。山林での作業や、登山など、マダニが多く生息しそうな地域へ赴く際は、長袖、長ズボンを着用の上、露出部に人体用虫よけ剤を塗布しておきましょう。

感染症蔓延を防ぐために、最も重要なのは、我々国民一人一人が、感染症対策を行うことです。当社、大日本除虫菊(株)(KINCHO)も、家庭用殺虫剤、各種虫よけが、感染症対策の一助となっていると使命を持って、今後もよりよい製品の生産、開発を行っていく所存です。

参考文献:

- 「地球温暖化と感染症」、感染症
- 「沖縄の地域保健医療における開発経験と途上国への適用」、国際協力事業団 国際協力総合研修所
- 「デング熱媒介蚊に関する一考察:1942-1944年の日本内地のデング熱流行におけるヒトスジシマカ *Aedes albopictus* およびネッタイシマカ *Aedes aegypti* の意義について」、堀田進 [Med. Entomol. Zol. Vol.49 No.4 p. 267-274 1998]
- 「マダニ対策、今できること」、国立感染症研究所

●公益社団法人 日本 WHO 協会 事務局だより

グローバル化が急速に進む中で、将来の地球を背負う日本の若い人たちに、世界の保健医療の場で活躍されることを希望しております。

jaih-sの人達との共催企画事業を行い、WHOのインターシップの制度に採用された方に少額の経済的支援を行っております。

皆さまのご支援を得て、これらの事業を伸ばしていきたいと思っております。